

関根 正二

1899(明治32)–1919(大正8)

神の祈り

関根正二の代表作としては、大原美術館に収蔵されている《信仰の悲しみ》がよく知られています。

この作品は《信仰の悲しみ》で描かれた世界を造形的により純化した姉妹作と考えられています。ガーベラの花咲く薄明の野を歩む二人の女のうち、一人は地上を指さし、一人は手に果物のようなものを捧げています。頭部には円光が描かれ、二人が聖なるものであることを示しています。《信仰の悲しみ》や《神の祈り》で描かれた神秘的な世界には様々な解釈がありますが、関根にとっての理想郷である悲哀の聖地と、そこに住む永遠の女性を描いたものとも考えられています。